

「経営戦略」 進捗管理総括表

経営方針	主要施策	計画期間での取組目標（令和11年度）		令和4年度の 実施内容・成果	令和5年度の 実施予定内容
		取組	具体的な取組内容		
快適で良好な生活環境の創造	(1) 未普及対策	① 江戸川第一終末処理場の整備	令和2年度中に水処理第1系列を供用します。また、令和11年度までに水処理第2系列などを供用するとともに、処理第3系列以降も順次整備していきます。	【江】 ・水処理第2系列杭完了 ・用地買収1件 令和4年度進捗率 38% (目標38%)	【江】 ・水処理第2系列土木躯体完了 ・污泥焼却炉完了
			(2) 高度処理の推進	② 既設施設の段階的 高度処理	江戸川第二終末処理場等の一部の水処理系列において段階的 高度処理を実施します。 【印】花見：段階的 高度処理認定のための 条件の流入水量が不足 したため、R5年度中に データを取り終える予 定。花二：水処理1・2 系列の段階的 高度処理認定を完了し た。 【江】業務委託の成 果品に基づき実証試 験の実施。 令和4年度進捗率 11% (目標44%)
	(3) 下水道資源の有効利用	③ 再生水の有効利用	花見川終末処理場では、今後も、公共施設や大規模商業ビル等の事業者の意向や社会環境の変化を踏まえながら、再生水の有効利用を実施していきます。	【印】・再生水の供給を安定的に実施した。 ・コロナ禍の影響で、施設側の需要が減少した。 令和4年度進捗率 69% (単年目標)	【印】・需要に合わせて安定供給を実施する。 ・再生水処理施設の設備老朽化に対応して、修繕計画を立案する。
			④ 汚泥の有効利用	令和11年度までに震災前の水準を目指し汚泥の資源化を図っていきます。 (震災前の汚泥の資源化率：84%)	【印】資源化率 54% 再資源化業者の施設トラブル等もあり、再資源化率は若干の上昇に留まった。 【手】資源化率 59% 【江】資源化率 61% 令和4年度進捗率 57% (目標57%)
	(4) 処理場用地の有効利用	⑤ 施設の上部空間等の有効利用	江戸川第二終末処理場や花見川終末処理場では、今後も引き続き、施設の上部空間など有効利用を図っていきます。	【印】施設の安全対策等のため、R4年6月から閉鎖 【江】江戸川第二終末処理場のいこいの広場の一般開放を継続して実施。 ・利用者数：74,541人(福栄スポーツ広場)	【印】施設の安全対策等のため、R4年6月から閉鎖 【江】今後も引き続き、施設の上部空間など有効利用を図っていく。
			(5) 創エネ・省エネの推進	⑥ 未利用エネルギーの活用	未利用エネルギーの具体的な活用方法やPPP/PFI導入など整備手法について検討するとともに、老朽化した焼却炉の更新に合わせた汚泥有効利用施設の整備を進めていきます。
	(6) 温室効果ガス排出量の削減	⑦ 処理水の熱利用		花見川終末処理場では、今後も、事業者の意向を踏まえ、処理水の熱利用を継続していきます。	地域冷暖房事業の需要に合わせて、処理水の安定供給を行ってきた。供給施設を維持管理し、必要に応じて修繕を実施した。
			⑧ 新技術の導入	下水処理場の設備の新規導入・更新時には、メンブレン式散気装置を設置するなど、積極的に省エネ機器を導入し、温室効果ガス排出量の削減に努めます。	【印・手・江】該当なし
	(6) 温室効果ガス排出量の削減	⑨ 設備の組合せの最適化		設備ごとに単独で効率化を図るだけでなく、設備の組合せの最適化による省エネ化を検討し、温室効果ガス排出量の削減に努めます。	【印】花見川終末処理場及び花見川第二終末処理場では 運転管理によるエネルギー削減手法は、実運用にてすべて実施済み。 【手】No.1重力濃縮設備更新工事において、配管の見直しによるポンプとの組合せの最適化により、濃縮汚泥移送ポンプの電動機が18.5kwから7.5kwへ省エネ化され、温室効果ガス排出量の削減を図った。 【江】該当なし
			(6) 温室効果ガス排出量の削減	⑩ 工事中の環境対策	工事を実施する際には、建設・運搬機械の運転における不要なアイドリング中止、環境対策型建設機械の選定など、温室効果ガス排出量の削減を推進していきます。
	(6) 温室効果ガス排出量の削減	⑪ 高温焼却の推進			花見川、花見川第二、手賀沼の各終末処理場では、焼却炉の汚泥焼却温度を原則850℃以上に保つ高温焼却を実施します。

「経営戦略」 進捗管理総括表

経営方針	主要施策	計画期間での取組目標（令和11年度）		令和4年度の 実施内容・成果	令和5年度の 実施予定内容
		取組	具体的な取組内容		
安全で安心なまちづくり	(1) 長寿命化の推進	⑫ スtockマネジメント計画の推進	ストックマネジメント計画に基づき、施設の点検・調査及び改築・更新を計画的に行っていきます。	<p>【印】印旛沼流域下水道鹿島幹線長寿命化対策工事の実施（R3繰越）＜新規着手＞花見川終末処理場4号機械濃縮機機械設備更新工事ほか1件（計2件）、＜完成＞花見川終末処理場沈砂池ポンプ棟No.6自動除塵機更新工事（計1件）</p> <p>【手】No. 1重力濃縮設備更新工事を実施。各戸ヶ谷幹線長寿命化工事を発注。</p> <p>【江】江戸川第二終末処理場汚泥処理監視制御設備更新工事を発注</p>	<p>【印】印旛沼流域下水道鹿島幹線長寿命化対策工事の実施＜新規着手予定＞鹿島ポンプ場電気設備更新工事ほか2件（計3件）、＜完成予定＞八千代ポンプ場電気設備更新工事ほか2件（計3件）</p> <p>【手】汚泥濃縮棟脱臭設備更新工事などを実施。</p> <p>繰越分の名戸ヶ谷幹線長寿命化工事の施工及び継続して名戸ヶ谷幹線長寿命化工事の発注を行う。</p> <p>【江】江戸川第二終末処理場No. 1汚泥脱水機（機械・電気）設備更新工事を発注</p>
	令和4年度進捗率		50%	(目標70%)	
	(2) 地震対策の推進	⑬ 総合地震対策計画の推進	各施設の地震対策は、流域別の総合地震対策計画に沿って実施していきます。	<p>【印】花見川第二終末処理場塩素混和池の耐震診断、桑納幹線耐震診断等の実施</p> <p>【手】第一沈砂池ポンプ棟及び水処理第5系列反応槽の補強実施設計を実施。水処理第4系列地震対策工事（伸縮継手）の実施。第二分水槽工事の継続実施。導水渠地震対策工事の継続実施。</p> <p>【江】江戸川第二終末処理場水処理施設の耐震診断、地震対策工事、幹線管渠耐震診断、特殊人孔地震対策工事を実施</p>	<p>【印】花見川終末処理場導水渠耐震補強工事、磯辺幹線浜田川水管橋耐震補強工事の実施</p> <p>【手】総合地震対策計画策定業務委託の発注。水処理第4系列耐震診断の発注。第二沈砂池ポンプ棟補強実施設計の発注。水処理第3系列伸縮継手実施設計の発注。水処理第4系列地震対策工事（伸縮継手）の発注。水処理第5系列地震対策工事の発注。第一沈砂池ポンプ棟地震対策工事の発注。分水槽工事の継続実施。</p> <p>【江】江戸川第二終末処理場水処理施設の耐震診断、市川ポンプ場耐震診断、幹線管渠耐震診断、特殊人孔の耐震診断、地震対策工事を実施</p>
令和4年度進捗率		35%	(目標43%)		
(3) BCPの推進	⑭ BCPの推進	災害時受援体制の構築・強化及びロールプレイ型訓練により実効性の向上を図ります。また、PDCAサイクルによる計画の見直しを進めていきます。	<p>【印】BCPの改訂。震災対策訓練・情報伝達訓練の実施。鹿島Pの耐水化工事の実施</p> <p>【手】BCPの改訂及びBCP訓練の実施。</p> <p>【江】BCP訓練の実施。市川ポンプ場の耐水化工事の実施</p>	<p>【印】BCPの改訂。震災対策訓練・情報伝達訓練の実施。</p> <p>【手】BCPの改訂及びBCP訓練の実施。</p> <p>【江】BCP訓練の実施。</p>	
安定した経営基盤の確立	(1) 公営企業会計の導入	⑮ 公営企業会計の導入	令和2年4月から、地方公営企業法の一部を適用し、これまでの官公庁会計から公営企業会計に会計方式を変更します。的確な経営状況の把握及び財政収支と一体化した事業計画を策定することにより、安定した経営基盤を確立していきます。	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に公営企業会計導入済み。 流域下水道事業財務規則の一部改正（専決区分の見直し等） 公認会計士とのアドバイザー契約締結 公営企業会計システムの操作研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 公営企業会計システムの更新及びインボイス制度への対応 公認会計士とのアドバイザー契約締結
	(2) 広域化・共同化の推進	⑯ 広域化・共同化の推進	令和4年度までに「千葉県汚水処理広域化・共同化計画」を策定します。	ソフト対策について検討し、団体の意向を確認したうえで、令和3年度にとりまとめたハード対策とともに計画に盛り込み、令和5年3月に広域化・共同化計画を策定した。	令和4年度に策定した千葉県汚水処理広域化・共同化計画に基づき、適切に進捗管理を行うことで、取組みメニューの進捗を図る。
	(3) 民間活力の活用	⑰ 包括的民間委託の推進	今後も、委託内容を検討しながら継続していくとともに、概ね5年程度を目安に事後評価を実施して、包括委託のあり方を見直しながら維持管理の効率化を図っていきます。	花見川第二終末処理場の包括的民間委託（第5期）について、事後評価を行った。	手賀沼終末処理場の包括的民間委託（第6期）の発注手続きを行う予定。
		⑱ PPP/PFIの原則導入	下水処理場の施設改築や汚泥有効利用施設の新築にあたっては、PPP/PFIの導入について検討を行い、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用により下水道事業の一層の効率化を図っていきます。	アンケート（1次）調査の結果により、事業の方向性を見出すため、概算事業費の確認を含んだアンケート（2次）調査を実施。	【印】花見川終末処理場3号汚泥焼却炉更新基本計画再検討業務委託、焼却炉の更新に向けて、PPP/PFIの導入も視野に業務を実施する。
(4) 職員の技術力の向上	⑲ 研修・講習会等	研修や講習会への積極的な参加を推進するとともに、勉強会、現場見学会を開催するなど、職員の技術力の向上を図っていきます。	3下水道事務所で合計で、勉強会を6回（93人）、現場の日を5回（59人）を実施した。	各下水道事務所で勉強会、現場の日を実施	
	⑳ 共同研究	「共同研究」を行い、成果を流域下水道事業へ応用するとともに、職員の技術力の向上を図っていきます。	令和4年度においては、共同研究に関する提案はなかった。	千葉県下水道公社が定めた課題や、下水道公社以外の者が提案した課題に関する調査研究を実施	

「経営戦略」 進捗管理総括表

経営方針	主要施策	計画期間での取組目標（令和11年度）		令和4年度の実施内容・成果	令和5年度の実施予定内容
		取組	具体的な取組内容		
安定した経営基盤の確立	(5) 雨天時浸入水の削減	⑳ 不明水対策	雨水時浸入水の多い地区の特定するとともに、関連市町による雨天時浸入水対策計画の策定・実施など、浸入水削減の取組について関連市町と連携して取り組んでいきます。	<p>【印】流域市町と削減のための会議を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 不明水対策会議にて5ヵ年計画等の実施状況確認 現在の施設管理の状況について施設の状況、電気料金等の高騰について <p>令和3年度の溢水の対応について近年の不明水の流入量について</p> <ul style="list-style-type: none"> 溢水対策の県の取り組みについて情報の共有花見川第二終末処理場、平戸ポンプ場、物井ポンプ場 <p>【手】流量計を2基設置。不明水対策会議を開催し、関連市が行う対策の進捗状況確認と対策の推進を要請。</p> <p>【江】不明水対策担当者会議を実施し、関連市の対策計画の策定・実施など浸入水削減の取組について連携して取り組んだ。</p>	<p>【印】</p> <ul style="list-style-type: none"> 流域市町と不明水対策会議を実施し、対策の実施状況を確認する。 花見川第二終末処理場の不明水対策（主ポンプ3台運転（大1台、小2台））の業務実施設計業務 物井ポンプ場の不明水対策（低段ポンプの増設、高段から低段への水路新設）の実施設計業務 <p>【手】流量計を1基設置。不明水対策会議を開催し、関連市が行う対策の進捗状況確認と対策の推進を要請。</p> <p>【江】雨天時浸入水量の多い地区の把握に向け、流量計設置の実施設計業務を行う。 不明水対策担当者会議を実施し、雨天時浸入水削減の取組について関連市と連携して取り組む。</p>
		㉑ 設計・施工段階での取組	設計段階では、ライフサイクルコストの比較検討、省エネ機器の導入、新技術の活用などのコスト削減に努めます。施工段階では、再生資材を活用することで建設費の削減に努めます。	<p>【印】再生砕石等の再生資材の活用</p> <p>【手】掘削土砂の現場内利用。再生砕石、再生アスファルト等再生資材の利用。</p> <p>【江】最適設計による初期コスト削減</p>	<p>【印】前年度と同様</p> <p>【手】掘削土砂の現場内利用。再生砕石、再生アスファルト等再生資材の利用</p> <p>【江】C₀殻を粉碎し砕石として使用</p>
	(6) コスト削減・収益増加	㉒ エネルギー診断	各処理場でエネルギー診断を実施し、令和4年度までに実証運転を実施しエネルギー使用量の削減に努めます。	<p>【印】花見川終末処理場及び花見川第二終末処理場では運転管理によるエネルギー削減手法は、実運用にてすべて実施済み</p> <p>【手】前年度の検討結果を踏まえて実証試験を実施</p> <p>【江】江戸川第二終末処理場で消費エネルギー診断業務の成果品に基づき実証試験と検証を実施</p>	<p>【印】花見川終末処理場及び花見川第二終末処理場では運転管理によるエネルギー削減手法はすべて実施済みでなので、実運用でエネルギー削減を継続する。また、省エネ機器の更新を検討する。</p> <p>【手】実証実験の検討結果を踏まえ、出来るものについては、取り入れたい。</p> <p>【江】江戸川第二終末処理場で、実証試験と検証を基に実運用を開始する。</p>
		㉓ 下水熱の活用	「下水熱ポテンシャルマップ」の作成により民間事業者等の更なる下水熱利用の促進を図るなど、収益を増やしていく取組について検討していきます。	取組み実績なし	流域下水道事業で実績のある他県等に聞き取りを行う等、情報収集を行う。
		㉔ 太陽光発電設備の設置	下水道用地内への太陽光発電設備の設置・運営の可能性について、PPP/PFIの導入と併せて検討していきます。	太陽光発電に関する制度、先事例の調査、導入を想定した場合の概略検討及び導入箇所、発電規模、電力利用方法(自己・売電・非常時)等について検討を行った。	昨年度の検討業務で提示された課題を解決するよう、さらに検討を進めるとともに、太陽光発電設備設置に向けた設計業務を発注するため、資料収集等の準備を行う。
		㉕ 用地の民間活用	未利用地の更なる活用のため民間事業者による未利用の下水道用地の貸付けをするなど、賃料収入を得る取組について検討していきます。	<p>【印】救急搬送用のヘリポートを病院局との協定で供用している事例や、覆蓋上部の美浜ふれあい広場の供用などの無償の事例はあるが、賃料収入を得る未利用地貸付は行っていない。</p> <p>【手】指定廃棄物を一時保管しているため、用地の民間活用は困難</p> <p>【江】活用を検討</p>	<p>【印】賃料収入が得られる事案について検討していく</p> <p>【手】活用を検討</p> <p>【江】前年度と同様</p>